

広島県博物館協議会令和6年度第1回会議 議事録概要

1 日 時

令和6年11月15日（金）午前10時00分～午後12時20分

2 場 所

広島県立歴史博物館（福山市西町二丁目4-1）

3 出席委員（9名）

安間会長、城市副会長、井口委員、浦田委員、道面委員、富永委員、畑石委員、山口委員、渡辺委員

4 欠席委員（6名）

出原委員、伊藤委員、佐藤委員、蜂谷委員、藤井委員、元泉委員

5 担当部署

広島県教育委員会事務局管理部文化財課（082-513-5021）

6 議事概要

(1) 開会

本会議は、広島県博物館協議会条例第5条第2項に規定する定足数を満たしており、成立することを確認した。

(2) 挨拶（文化財課課長）

(3) 委員紹介

(4) 議事

- ・各館（歴史博物館を除く）の夏の展示について振り返り

夏の展示について、美術館・歴史民俗資料館から振り返りを説明した。

美術館は所蔵作品展第2期サマーミュージアム「美術の教科書！「あの作品、あの作家」と出会う、学ぶ」、特別展「金曜ロードショーとジブリ展」について説明した。所蔵作品展について、教科書という切り口の下実施し、教科書と連動した作品を選定したこと、子ども向けのワークシートや一部作品をスケッチできるコーナーを設置したことなどを実施上の

工夫として挙げた。特別展から所蔵作品展への流入率が昨年と比べると低かったことを課題として挙げた。特別展については、多くの来館者があったこと、一方でそれに伴う導線の確保など展示室の環境の維持に課題があったことなどを説明した。

歴史民俗資料館は夏の特別企画展「ふしぎな世界であそぼう！トリックアート展」について説明した。アンケート分析により、初めての来館者が60%であり当企画展開催の目的である認知の拡大につながったのではないかということ的成果として報告した。アンケート用紙を利用したトリックアート人気投票の実施、投票結果をエクセスで投稿したことなどを実施上の工夫として挙げた。また、7月上旬からお盆前までの期間の来館者をいかに増やすかということ課題として挙げた。

《主な意見、質疑応答等》

(委員) 夏の所蔵作品展について、一部作品をスケッチできるコーナーの設置というのはとても良い取組だと思った。もっと充実させて、指導員のような方から絵の見方や彫刻の触れ方についての説明を受けながら、子どもたちがそれをスケッチするような企画があると、子どもたちが絵に興味を持ち、美術館を身近に感じることができ、保護者の方も行かせたくなる企画だと思うのでぜひ検討していただきたい。

(委員) ジブリ展のような注目を集める企画展の場合、多くの来館者があると思うが、県外含めてどう発信していくのかということのも大きな課題になってくると思うので、県外からどの程度来館しているか等分析して、文化芸術の拠点というだけでなく、一つの観光施設としてもどうやっていくかということについても検討していただきたい。

(委員) 入館者数というのは美術館の基本的な実績だと思う。ジブリ展のような多くの入館者が入るファンの幅の広い展覧会を、他の展覧会にも生かしていただきたい。ジブリ展と比較すると反響は少ないが、今開催している児玉希望展のような、地元作家をしっかりと研究して手間をかけていい展覧会をつくるということは、学芸員の成長にもつながり、非常に重要だと思うので、ジブリ展のような展覧会で入館者を稼ぐことによって、こういった展覧会を確保していただきたい。

(委員) ジブリ展のような入館者が多い時にしっかり常設展も見てもらい、常設展の中で、普段他の展覧会には反応しない人が次の展覧会も行ってみようと思えるような仕掛けがあれば良いと思う。

(委員) 小学校、中学校で美術は必須科目なので、日頃からなれ親しんでいる教科書を切り口に、美術や工芸に関心を持つ子どもを広げていくのは非常に大切な取組なので今後も頑張っていたきたい。

(委員) 現在小学校で行っている教育活動の中で、芸術に触れる社会見学をなかなか取り入れる機会がないので、今後、本物に触れることで子どもたちが受ける影響は大きいことだと思うので、学校ができる芸術への興味づけを考えていきたい。

(委員) サマーミュージアムは教科書が切り口だったということで、実際教科書は展示されていたのか。

(美術館) 教科書を置いて自由に閲覧できるようにしていた。展示している作品について、ここの教科書に載っているという案内もつけて解説のところに展示していた。

(委員) 作品と一緒に教科書が置いてあると、今習っているところについてであるとか親子の間に会話ができる。また、子どもたちは実際教科書で見るよりも実際のものを見て感じたり、触ってみて感触を覚えたりしたことのほうが印象に残りやすいので、美

術や歴史にますます興味を持ついい機会になり、とても良い取組だと思った。

(委員) 美術館の所蔵作品展や歴史民俗資料館の常設展については、解説がつくと全く違うものになると思うが、ガイドツアーや学芸員の活躍について教えてほしい。

(資料館) ガイドツアーについて、学芸員の業務の関係もあり、企画展については数がこなせていない。今後研究していきたい。

(美術館) 所蔵作品展については友の会ボランティアの方が基本的には毎日 14 時からおこなっている。企画展については学芸員が解説する場を持っているところだが、数は多くはないので、今後機会を増やしていくことで皆さんに美術に親しんでいただく機会を増やしていきたい。

(委員) 夏休みに子どもを連れて美術館や博物館に行く親の気持ちになると、想定以上のことが起きると、満足して、また美術館に一緒に行こうと思うのではないか。その想定以上のこととは、玄関から出口までの間に学芸員の方がどんな時間を計画しているか、こんなことを企画したという思いに触れたいというところだと思う。その思いとどうつながるか、そのチャンスをどう仕掛けていくのが期待されていると思う。

(委員) 歴史民俗資料館の広報について、エックスを使用しているが、普及率やターゲット等を考えInstagramはしないのか。

(資料館) 現在使用しているエックスの運用にもオペレーション上の課題があり、それらの課題をクリアしないとInstagramも使用するということは今の段階では難しい。

(委員) 現在、NHKで埴輪や古墳に関する番組はたくさんあり、国立博物館で埴輪展をしていることもあり、かなりフィーバーしていると思う。歴史民俗資料館について、三次の埴輪についても、三次の人は誰でも知っているというぐらいになるほどの、学芸員の解説などで熱の入れ具合を感じるような場面に出会うと、子どもたちも興味を持ち、はまる人が増えていくのではないか。古墳時代や、そこで展示されているものをどう増やしていくかというところにエネルギーや思いが感じられる施設になっていったら、地元の人が地域に誇りを持つというところにもつながっていくと感じている。

・施設視察

歴史博物館で開催している特別展「源氏物語の世界展」を解説を聞きながら視察した。

・歴史博物館の取組について

夏の展示について、歴史博物館からは企画展「名宝が織りなす歴史物語ー広島県の国宝・重要文化財IVー」を取り上げて説明した。小学生を対象としたワークシートを配布し、親子で会話をしながら文化財について考えを深めてもらう機会としたことを工夫として挙げた。また、家族で楽しめる博物館づくりに関連する取組として、菅茶山のマンガやこども博物館教室、草戸千軒お化け屋敷などを紹介した。分館の頼山陽史跡資料館は企画展「名刀に挑む！ 刀匠久保善博の世界」を取り上げて説明した。直接刀匠本人から話を聞き、会話できる機会を設けたことを工夫として挙げ、言葉の難しい刀剣鑑賞のポイントいかにわかりやすく伝えることができるかということ課題として挙げた。

歴史博物館で行っている広報活動について説明した。そのうえで、さらなる入館者の増加、

家族で楽しめる博物館づくりに向けて効果的な広報活動について、委員に意見を求めた。

《主な意見、質疑応答等》

- (委員) どういった方に来ていただきたいかというターゲットを明確に定めて、インスタグラムなのか、X (エックス) かなど、どのSNSを活用するかということを考えるのがいいのではないか。
- (委員) たとえば子ども博物館教室に来た方々にアンケートを取ると、イベントだから来ているのか、年に何回かこういうところに来ているのか、そういったことも数値で見えていくと、新規の方なのか、日常的に来られる方をターゲットにするのか、そういったことも必要なのではないか。
- (委員) どの取組も目的が明確であるので、こういったことは子育てをしている人たちにとても刺さることだと思う。(広報で) そこが出てくるとよりいいのではないか
- (委員) たとえば「源氏物語の世界展」のエックスの投稿についても、今はチラシが1枚目ですが、子どもが実際に着物を着ているところとか何かしているところの笑顔などを1枚目に持ってきて、再度のチラシが来るような形にする、といった形にすると写真が入らなければリンクなどで情報に飛ぶようにできれば親世代が連れていきやすくなるのではないか。
- (委員) イベントも大事だが、イベントの先に身近にして日常の来館者を増やしていくということ、とてもハードルが高いが何ができるか考えていくことが大切だと思う。
- (委員) 特別展示では外国人観光客向けの標記がなかったので、もう少しインバウンドの方をしっかりと取り込む工夫が必要なのではないか。
- (委員) PRをしていく中で、歴史博物館だけではなく、福山城との組み合わせで来られる方が多いと思うので、そういったPRの仕方を少し工夫する必要があると思う。旅行会社やバス会社へ向けて。ターゲットをしぼりながら 個々の努力だけでなく、組み合わせて、県外や県内の人々にPRできるような広報の仕方やアプローチの仕方を検討していただきたい。
- (委員) 美術館や歴史民俗資料館の夏の展示のような業者が入っているものと、歴史博物館や頼山陽史跡資料館のような館所蔵品やコレクションのあるところとつながりを生かして実施したものなど、あまり予算をかけることなく実現した展示の差異は勘案ながら結果を考えるべきだと思う。
- (委員) 家族向け、子ども向けとなると博物館の活動の中でエデュケーションという部門になり、展覧会や作品収集など専門的な知識を要する活動(研究的なキュレーション)とはまた違った領域になり、学芸員の方々からすると専門外になると思うので、工夫・努力をしながら行っていると思う。エデュケーションの部門を作ることを考えてもいいのではないかと思った。

(5) 閉会